

証券市場新聞

1 第139号

日経平均株価

2万2712円75銭

▲125円88銭(前日比)

TOPIX

1775.76

▲9.98(前日比)

2018
7/30
月曜日

発行元 ココ・パートナーズ株式会社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6F

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



商用化へ動きだす5G

電子部品や設備投資関連をマーク

通信業界では2019年から20年に商用化が予定されている第5世代移动通信システム(5G)に絡む設備投資へ向けた動きが活発化している。5Gでは現行の4GであるLTE-Advancedに比べて約10倍の高速通信が可能で、IoT(モノのインターネット)時代には必要不可欠な技術と位置付けられている。スマートフォンの高性能化はもとより、自動運転や産業分野、医療分野など様々な場面での活用が期待されており、関連企業の動向も注目される。

本格的IoT時代に向けて



過去、移动通信システムが新世代へ進化する過程で様々な人々の生活が便利になってきた。5Gは1平方キロメートルあたりの同時接続端末数がLTE(3G)の約100倍、通信にかかる遅延時間もLTEの10分の1と格段に進化する

5G登場で移動体高速通信が劇的に進化する。5Gは1平方キロメートルあたりの同時接続端末数がLTE(3G)の約100倍、通信にかかる遅延時間もLTEの10分の1と格段に進化する。海外ではベライゾンとAT&Tの通信大手2社が今年中に商用化に踏み切るなど、5Gの普及を前倒して進める動きとなっている。国内ではNTTドコモ(9437)が5Gの携帯電話サ

ービスを20年春に開始する予定であることが伝えられており、これらに絡む設備投資も急ピッチで進められている。端末についても18年中には商用チップの開発がスタート、体的な開発がスタートしている。19年中には端末の具

も恩恵電子部品の関係

る。個別では小型基地局を多数設置する必要性から、それを接続する光ファイバーで古河電気工業(5801)や住友電気工業(5802)、電子部品では村田製作所(6981)やローム(6963)、通信用計測装置ではアンリツ(6754)、NTT工事など電気通信工事大手の協和エクシオ(1951)が注目される。

日経平均日足チャート



三菱UFJの日足チャート



銀行株値上りトップ

金融緩和修正報道受け金利上昇

業種別上昇率でトップに立った。日銀が30、31日に関与金融政策決定会合で金融緩和の副作用に対応して、現在の金融緩

23日、三菱UFJ、フィナンシャル・グループ（8306）をはじめメガバンクが急反発するなど銀行株が総じて高い

今週の動意銘柄

和策に修正を加える可能性があると伝わったことが買い手掛かり。報道を受け新

値高株が急落した。

東製鉄17%営業減益

23日、東京製鉄（5423）が反落。19

年3月期第1四半期の単体決算を発表、

売上高は476億3400万円（前年同

期比19.4%増）、

営業利益は38億5800万円（同16.9

%減）だった。ただ、

出荷単価が値上げを反映して概ね想定ど

おり上昇、主原料の鉄スクラップの購入

単価は、期初計画を下回って推移したこ

とから、利益幅が拡大、想定を上回る進捗となっている。

公開価格の2.1倍

M SOLの初値

23日、マネジメン

トソリューションズ（7033）が東証マ

ザーズ市場へ新規上

場、公開価格2100

円の2.1倍となる

4500円で初値をつけた。マネジメ

ントコンサルティン

グ、プロジェクトマネ

ジメント実行支援

マネジメントトレー

ニングを展開する。

Vコマースは上方修正

23日、バリュース

（2491）が急伸、年初来高値を更

新した。18年12月期の連結業績予想を修正、

売上高188億円を1

98億1000万円

（前期比17.3%増）、

営業利益24億5000

0万円（同47.1%増）、

純利益16億7000

万円を21億8000

万円（同2.2倍）へ

上方修正。成果報酬型

広告やYahoo!ショッピングの

ア向けCRMツール、クリック課金型広告が伸びている。

KOAは失望売り

24日、KOA（6999）

が急反落。19

年1月期第1四

半期の連結決

算は、売上高1

40億4600

万円（前年

同期比9.6

%増）、営業利

益11億8000

公開価格の2.1倍

24日、バンク

オブ・イノベー

ションの初値

が東証マザーズ

市場へ新規上場、

公開価格960

円の2.1倍となる

2000円で初値

が生まれた。スマ

ートフォンゲー

正直いいさんの株で大判小判

27日の東京市場は反発しました。貿易

摩擦問題への警戒感後退でNYダウが

続伸した流れを引き継ぎ、買いが優勢で

したが、10年債利回り上昇を警戒する向

きもあり、積極的に上値を追う動きもあ

りません。

やはり、週明けの日銀

定会合の内容を見てか

出るのでしよう。第1

の内容に一喜一憂する

業績銘柄を狙う

金融政策決

ら方向感が

四半期決算

展開です。

割強の大幅

計画に対す

まったこと

だったよう

ですが、

しを上方修

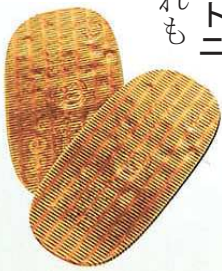
正し

き浸透する

と見

ピックアッ

プ



花咲翁



24日、コーエーテクモホールディングス(3635)が3日連続騰。23日取引終了後、19年3月期の第1四半期(4/6月)連結決算を発表、売上高は81億9000万円(前年同期比24・4%増)、営業利益は22億9400万円(同2・3倍)、純利益は28億3800万円(同7・2%)減だった。ゲームのトフォングームの運営収入やIP許諾の収入が膨らんだ。元従業員が無断で返品売、などを付帯して販売、連結売上高に占める割合は10%未満ながら、取引の開始時期

コーエーテクモ3連騰

第1四半期は2・3倍営業増益

セック2Q上方修正

24日、セック(3741)が反発。19年3月期の第2四半期累計単体業績予想を修正、売上高を23億5000万円から25億円(前年同期比

ジャストシステム取引

25日、ジャストシステム(4686)は急反落。法人向け事業の一部製品について、会社が認めていない契約条件に基づく取引引きを行うことが判明したと発表した。元従業員が膨らんだ。元従業員が無断で返品売、などを付帯して販売、連結売上高に占める割合は10%未満ながら、取引の開始時期

25日、ジャストシステム(4686)は急反落。法人向け事業の一部製品について、会社が認めていない契約条件に基づく取引引きを行うことが判明したと発表した。元従業員が膨らんだ。元従業員が無断で返品売、などを付帯して販売、連結売上高に占める割合は10%未満ながら、取引の開始時期

9・3%増)、営業利益を2億3000万円から2億8000万円(同36・6%増)、純利益を1億7000万円から2億1000万円(同52・2%増)へ上方修正した。移動体通信事業者向けサービス系開発の好調に加え、モバイル決済関連の開発とロボットの研究開発案件が増加している。

や損害額などは現在精査中としている。公開価格の2・3倍

25日、GAtechの初値s(3491)が東証マザーズ市場へ新規上場、公開価格2510円の2・3倍の5780円で初値を付けた。中古不動産流通プラットフォームの産流通プラットフォームの開設・運営、プラト不動産の売却仲介、古不動産の売却仲介、とリノベーションの企画・設計・施を行う。

日経平均当面25000円目標(一服波乱後)次は28000円目標押目買一貫

◎論より証拠・最近の買指示銘柄例及び最近の上昇銘柄例(7月23日)

- 三菱UFJ → 目先700円台→当面800円台→中勢900~1000円、押目買一貫(本紙上買予告620~630円)
- 野村HD → 目先600円台→当面700円台、中勢800~900円、押目買一貫(予告の今後に注目)
- 大和証券G → 6200~6500円各紙上断固買予告は目先7000~7500円より8000円へ
- トヨタ → 6000円前後買→次は8000円前後で一服後、いずれ10000円台目標(予告の今後に注目)
- 大日本住友薬 → 1400~1500円買予告→2518円に上昇中、今後は?(いづれ倍化へ?)
- 富士通 → 650円以下買→755円に上昇中、更に一段高の850~900円目標(今後に注目あれ)
- クミアイ化学 → 580~600円買→7月20日960円に上昇す、今後の行方は?

◎当社の基本は大局倍化、当面5~6カ月50%高前後目標の投資の王道なり(迷える投資家は試見)

底値買銘柄は当社にお任せください・底値大幅高予想銘柄お知らせします(成果確認)(返信切手1000円要)

田舎の名医が目標なり(会員のみ知る) (実績40年) 金融商品取引業者 登録番号 東海財務局長(金商)第45号(一般社団法人)日本投資顧問業協会会員

大伸経済研究社

会費1ヶ年50万円、2ヶ年80万円(継続同額)(税込)
 (会費が高い少数の会員制なり)(広告参照)
 (1年後の成果に自信ありお試ください)
 (電話等による入会勧誘は一切致しません)

公表銘柄は一例であり全てではありません
 目標値は当社独自の分析による予想値です
 有価証券の運用には、価格変動リスク、株式発行者の信用リスク、流動性リスクがあります。運用の結果、元本を割り込み、損失を被ることがあります。リスクに関して詳しくは契約締結前の書面をご覧ください。

電話058-243-5690(午前8:30~11:00)
 〒501-3144 岐阜市芥見大般若2-25-2 [インターネットでの資料請求はここをクリック!](#)

難波駅ナカをリニューアル

近鉄GHD

「Time's Place難波」と駅施設

近鉄グループホールディングス(9041)は近鉄リテーリングと近畿日本鉄道を通じて、伊勢志摩など近畿沿線への旅の出発点であるとともに、観光需要の高まる大阪「ミナミ」の玄関口である大阪難波駅のターミナル駅としての機能向上のため、駅ナカ商業施設「Time's Place難波」(難波)と駅施設(旅客トイレ)をリニューアルする。

「Time's Place難波」のコンセプトは「こちぶらナンバ」とし、お一人でもぶらりと気軽に立ち寄って楽しめる、食いだおれの街「ミナミ」ならではの「食」のエ

企業レター

近鉄グループホールディングス(9041)

センタータイムメントゾーンを創造。飲食は、スタンディングやカウンター形式を中心に、ビアバル、寿司、洋食など多彩に取りそろえる。

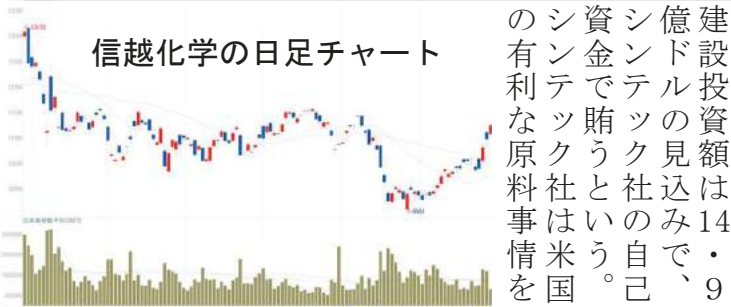
飲食店舗を中心とした9店舗の新規出店に加え、既存店舗もリニューアルする。駅施設は現状、東西の2カ所にあるトイレを中央の1カ所に移転・統合し、ベビーカーやキヤリーバックを利用の場合でも使いやすい広々とした通路、ブース、パウダーコーナーなどを設ける計画。

リニューアル工事は2018年7月から開始し、19年7月までに順次オープンする。

信越化学は続騰

米国子会社塩ビ新工場建設

25日、信越化学工業(4063)が、米国子会社「シンテック社」の塩化ビニル樹脂(PVC)の一貫工場の新設を開始したことが発表された。ルイジアナ州の現有工場に隣接する更地の新規工場建設となり、



信越化学の日足チャート

25日、ブロードリーフ(3673)がストップ高で新値。18年12月期第2四半期累計の連結業績予想を修正、売上収益を94億円から100億8000万円(前年同期比27・2%増)へ、営業利益を9億5000万円から15億4000万円(同

取り込みながら、北米や世界の需要増加に際するとともに、後続の能力増強を適時に行う考え。

プロドリフS高で新値

バリュー株に狙いを定めて

先週の東京株式市場は拡大していたNT倍率に修正が加わり、TOPIX型での上昇を鮮明にし、割安株の水準訂正が進み出しました。

TOPIXは前週の25日線に続き先週は75日線、200日線をブレイク。1777ポイント近辺を抜けると、5月高値と6月高値を結んだ延長線上のレジスタンスを突破することになります。上述のポイントを抜けるとサマーラリー突入のシグナルです。

1月高値期日を通して需給も改善してきており、足元では決算発表が本格化してきました。好決算企業は買われ悪いものは売られるのは当然のこと。3月決算発表時は円高が進行していた時期でもあり、慎重な計画数字が公表されました。

計画に対する進捗率の高い銘柄を中心にバリュー株中心に攻めていく局面でしょう。

日々勇太郎



転ばぬ先のテクニカル

エーザイ臨床悪材料視

26日、エーザイ(4523)が大幅安。

バイオジェン・インクとBAN2401の早期アルツハイマー病の臨床第2相試験結果について、プラセボ群に比較して統計学的に有意な症状の進行抑制が30%抑制としたことをネガティブ材料視。バイオジェン・インクが引け後の取り引きで急落し、高値警戒感もあってエーザイ

公開価格の2倍

26日、アクリートの初値

株の売りに波及した。アクリートの初値(4395)が東証マザーズ市場へ新規上場、公開価格770円の2・0倍の1542円で初値をつけた。個人認証、マーケティング、コミュニティなどユニークな企業から個人向けSMS配信サービスを行う。

企業レター

近寄りたくなる仮設トイレ

大和リースとLIXILが共同で開発



(仮称) 新型ユニットWC

大和ハウス

夏のイベントにふさわしい暑さ対策機能をプラスした、ミストシステム付きのトイレ「(仮称) 新型ユニットWC」を共同で開発し、2019年4月から大和リースを通じて販売・リースを開始する。

「(仮称) 新型ユニットWC」は、「近寄りたくなる仮設トイレ」

大和ハウス工業(1925)

傘下の大和リースとLIXILグループ(5938)傘下のLIXILは、真

をコン
セプト
に、建

築リース業界のリーダーとして培ってきた大和リースの経験と、住宅設備機器メーカーであるLIXILのトイレに関する技術や知見など、両社の強みを活かして開発された新型のユニットトイレ。また、搭載しているミストシステムには、技術協力先であるパナソニック(6752)が開発を進めている「シルキーファインミスト」を採用している。

これまで、音楽フェスやスポーツ大会など野外の短期イベントでの仮設トイレは「汚い、暗い、臭い」などの問題を抱えており、夏の野外イベント時は来場者の暑さ対策が課題となっていた。そこで今回、それらの課題を解決すべく「(仮称) 新型ユニットWC」を共同で開発。快適な洋式水洗トイレや、小さな子供も利用できる低リップ小便器(前方に張り出した受け部)などを装備したユニットWCとし、ミスト空間をプラスすることで、夏場の熱中症予防効果やイベントの価値向上に貢献する。

トリム値上がりトップ

第1四半期18%営業増益

26日、日本トリム(6788)が大幅反発、東証1部値上がりトップとなった。19年3月期第1四半期の連結決算を発表、売上高42億3400万円(前年同期比16.9%増)、営業利益8億1200万円(同18.2%増)だった。ウオーター

ヘルスケア事業では、整水器販売で6月に月次売上高の過去最高を更新。加えて「健康経営」を切り口とした企業への一括導入や販売効率の回復、昨年9月にトリムイオンGRACEを発売したことによる平均販売単価の向上などが寄与した。

26日、エクモーション(4394)が東証マザーズ市場へ新規上場、公開価格3340円を49.7%上回る500円で初値をつけた。システムとソフトウェアのテクニカルコンサルティング、エデュケーションサービスを展開する。



日本トリムの日足チャート

ネットワン営業3.6倍

週末27日、ネットワンシステムズ(7518)が急騰、最高値を更新した。19年3月期第1四半期の連結決算を発表、売上高は334億1800万円(前年同期比12.2%増)、営業利益は15億1100万円(同3.6倍)、純利益は10億3500万円(同4.2倍)

公開価格の1.7倍

と大幅な増益だった。主要パートナー向けビジネスと通信事業者経由のマネージドサービスが拡大した。プロレドの初値27日、プロレド・パートナーズ(7034)が東証マザーズ市場へ新規上場、公開価格4250円の1.7倍となる7170円で初値を付けた。成功報酬型の経営コンサルティングの提供を行う。

今週の動意銘柄

～決算情報～

日本トリム

第1四半期18%営業増益 6月に月次売上高過去最高を更新

日本トリム（6788）の19年3月期の第1四半期（4～6月）連結決算は、売上高42億3400万円（前年同期比16.9%増）、営業利益8億1200万円（同18.2%増）、純利益4億7900万円（同5.0%増）だった。

ウォーターヘルスケア事業では、整水器販売事業において、6月に月次売上高の過去最高を更新。これに加えて「健康経営」を切り口とした企業への一括導入や販売効率の回復、昨年9月にトリムイオンGRACEを発売したことによる平均販売単価の向上等が寄与した。

同期は売上高153億4000万円（前期比9.4%増）、営業利益21億3000万円（同32.6%増）、純利益12億1000万円（同2.4%増）と従来見通しを据え置いている。

日本電産

今3月期予想を上方修正 車載用モータやアクチュエータ牽引

日本電産（6594）は25日の取引終了後に、19年3月期の連結業績予想の修正を発表、売上高を1兆5750億円から1兆6000億円（前期比7.5%増）へ、営業利益を1900億円から1950億円（同16.8%増）へ、純利益を1450億円から1470億円（同12.3%増）へ上方修正した。

HDD用モーターは販売単価の上昇などが寄与、電動パワーステアリング用などの車載用モータや日本電産モーターズアンドアクチュエーターズのアクチュエータ製品が牽引し、液晶ガラス基板搬送用ロボットやプレス機器及び検査装置のも伸びている。想定平均為替レートについては従来どおり、対1ドル100円、ユーロでは125円として変更しておらず、現状の為替動向から先行き再上方修正が期待される。

三社電機製作所

生産性向上で営業益3倍 投資負担増加味し2Q上方修正

三社電機製作所（6882）の19年3月期第1四半期（4～6月）の連結決算は、売上高58億5200万円（前年同期比9.0%増）、営業利益5億5300万円（同3.0倍）、最終利益3億9000万円（同3.5倍）と増収で利益が急拡大。半導体業、電源機器ともに堅調で製品構成の変化や中国製造子会社を含めた生産性向上による収益改善効果が利益を押し上げた。

1Qの好調を踏まえ、第2四半期計画を修正、売上高は出荷の一部期ずれにより120億円から118億円（同0.4%増）へ若干引き下げたが、先行投資負担増を加味したうえで、営業利益を6億5000万円から8億円（同43.9%増）、最終利益を4億6000万円から5億5000万円（同30.0%増）へ引き上げるなど利益予想を上方修正した。

オムロン

1Q売上高は過去最高に 人員強化と開発投資拡大で減益

オムロン（6645）の19年3月期第1四半期（4～6月）の連結決算は、売上高2097億8400万円（前年同期比3.1%増）、営業利益196億900万円（同13.6%減）、最終利益146億7800万円（同5.4%減）と増収ながら減益で着地した。自動車向けを中心に主力の制御機器が伸び、世界各地で血圧計の拡販が進んだことで売上高は第1四半期として過去最高を記録。ただ、営業人員の強化や開発投資などを拡大したことが収益を圧迫した。

同期は売上高9000億円（前年同期比4.7%増）、営業利益930億円（同7.8%増）、最終利益645億円（同2.1%増）との増収増益予想と年間配当92円（前期76円）を据え置いた。

併せて500万株の自社株買いを発表した。

潮流

米国経済の拡大続く

株式市場は最も信頼性の高い指標

marKet / bAnk

7月第3週(17~20日)の日経平均先物とTOPIX先物の投資部門別売買動向による

と、海外投資家(外国人)は5週ぶりに買い越した。

日経平均先物とTOPIX先物を合算した買い越し額は5546億円だった。現物株(東京証券取引所が発表した東京・名古屋2市場、1部、2部と新興企業向け市場の合計)と合算すると、5866億円の買い越しだった。前週、7月第2週(9~13日)は日経平均先物とTOPIX先物は売り越しだったが、現物株を3248億円買い越しており、先物との合算では1382億円の買い越しだった。外人買いの増加が続けば日本株式市場に先高感が出てくる。

1~3月に外国人投資家は先物を6.1兆円売り越した。1月高値からの日本株の急落は外国人投機筋が先物を売ったからに他ならない。一転、4月から7月第3週まで先物を2.4兆円買い越した。まだ3.7兆円ほど先物を売り越しており、これからさらに買戻しが強まるだろう。日経平均は7月18日に付けた高値(2万2949円)からのスピード調整が23日の安値(2万2341円)で終わった可能性が高い。今後は

2万3000円の大台をブレイクする動きが期待できそうだ。

米国で18日、ベージュブック(米地区連銀経済報告)が発表された。同報告書によれば、雇用は引き続き大半の地区で緩やかに拡大した。

全地区で労働市場は緊迫していると報告され、人手不足は広範囲の職業におよび、企業は労働時間の増加、地元教育機関との連携を深め、一時雇用の常勤雇用への切り替えなどで人員確保に努めているという。こうした動きにもかかわらず賃金上昇は全般に依然、緩やかだった。ただ一部地区では上昇率の加速がみられたとの報告があった。全地区にインフレ化の波が強まればFRBは利上げも考えられるとみている。

今回はトランプ政権の保護主義的な通商政策の影響に対する懸念の声が製造業者の間で多くなったことが大きな特徴だ。米国経済の拡大は今後も続くだろう。ハイテク銘柄の多いナスダック総合指数は過去最高値更新だ。株式市場の上昇は最も信頼性の高い経済指標となる。

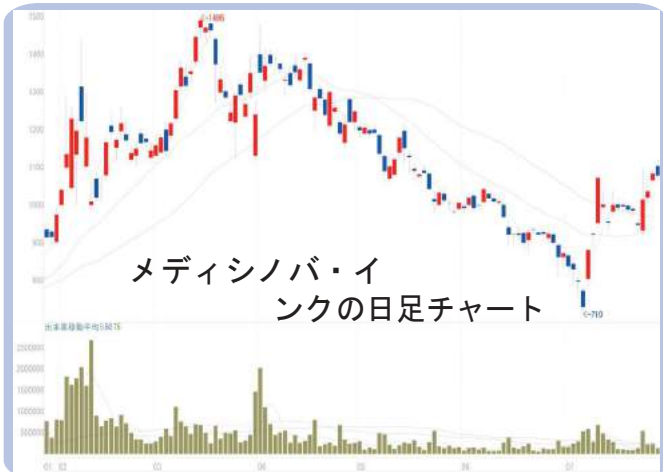
潮流銘柄はメディシノバ・インク(4875)、RPAホールディングス(6572)、ファイバークート(9450)。



岡山憲史氏(株式会
社マーケットバンク代
表取締役)のプロフイ
ール

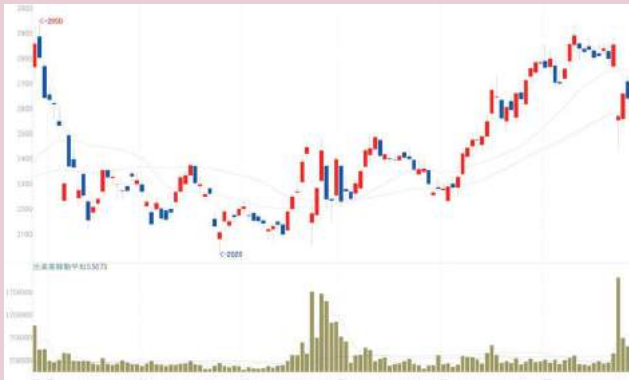
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは15.5%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

インフレ強まれば利上げも



チャートから読む 騰落銘柄

KOA (6999)



19年3月期の第1四半期決算での営業減益を受けて7月24日に50日移動平均線割れとなる2439円まで急落。工場稼働率の低下や海外子会社の期ずれは一過性要因で、業績不安後退ならリバウンド狙い。

ゼンリン (9474)



週足陽転のあと一呼吸入れて上昇再開。大勢上昇トレンドのなか、1月に付けた年初来高値を上抜き本格反騰へ。鋭角的に上昇し始めた5日移動平均を下値支持ラインに、株価噴き上げ局面に近い。

イズミ (8273)



19年3月期の第1四半期は8.4%営業増益も既存店販売や子会社利益の内容から計画未達の模様。株価は7月24日に6910円まで上昇もその後は50日線を抜かず、目先は上値の重い動きが続きそうだ。

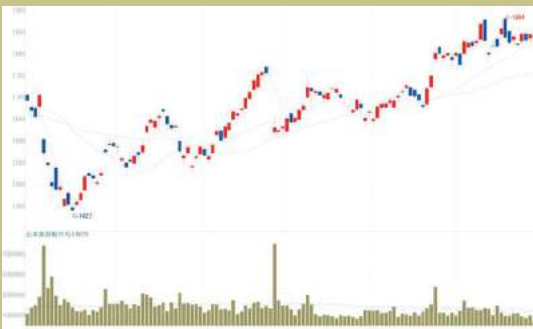
チヨダ (8185)



今期大幅減額を嫌気、急落後も上値は重く、底這い状態が続く。日足、週足に続き、月足も陰転の方向で、急降下する25日線に上値を抑えられ一段安も。年初来安値2113円維持へ正念場。

今週の

活躍期待銘柄



カシオ計算機(6952)

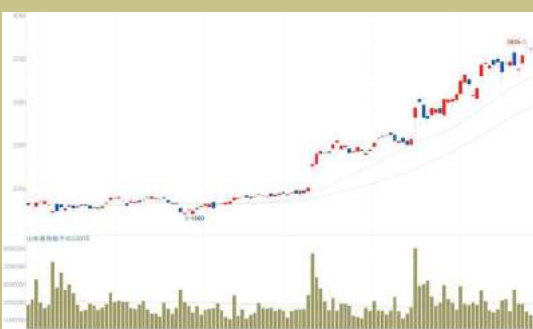
新事業2.5Dプリントに期待

カシオ計算機(6952)の株価は7月18日に1884円の年初来高値更新後に若干の利益確定売りに押されているものの、25日移動平均線を下値支持ラインに底堅い動きが継続、好実態から押し目があれば拾っていききたい。

19年3月期の第1四半期(4~6月)決算は8月1日に発表予定だが、連結営業利益では前年同期比20%超の大幅増益も期待されており、通期予想である350億円(前期比18・4%増)達成へ向けて順調な推移が評価されそう。

コンシューマの中核である時計事業はG・S・H OCKを含む新製品の販売が好調に推移、製品開発における経営者の正確な判断をサポートする新規事業の2・5Dプリントシステムは5月にパナソニック(6752)に納入されており、今後の展開に期待。(と)

19年3月期は大幅営業増益



太陽誘電(6976)

付加価値品伸び増額観測

太陽誘電(6976)はこの2カ月半にわたり着実に下値を切り上げ、噴き値局面を迎えようとしている。

小型大容量タイプコンデンサで村田製作所に次ぐ世界2位グループに位置し、スーパーハイエンドと言われる高付加価値製品の開発に注力。電子化が進む自動車や一般産業市場を本格的に開拓し始めた。

19年3月期はスマートフォン向けや為替などを厳しく見積もり、連結売上高2550億円(前期比4・5%増)、経常利益200億円(同2・7%減)と前期並みを予想したが、スーパーハイエンド製品の拡販が進み、為替レートは1ドル105円に設定していることから、8月6日の1Q決算発表に向け増額観測が強まる。

信用倍率は0・77倍と売り超過、貸借倍率は0・12倍と大幅な貸株超過で、踏み上げへ発展の可能性も。(き)

為替レート1ドル105円に設定

高野恭壽の株式情報 **これでどや!!**

2万3000円目指す

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

日経平均は7月18日の2万2949円39銭を高値に調整していましたが、7月第4週に入ると23日の2万2341円87銭で

下げ止まりしました。今回の調整の要因は国債の金利上昇で、円相場が113円16銭をピークに1ドル110円台まで円高が進んだことです。色々な報道から思惑を呼ぶ展開になり、為替が過度に反応した結果ですが、日銀の緩和姿勢は変わりがなく、急激な金利上昇も修正されています。今後ともトランプ大統領による過激な言動から為替が

終わっていないテックファーム

表本格化から日経平均は2万3000円台に乗せていくと思われ、目先の反落場面があれば、押し目を待っていた向きには絶好の買いチャンスが与えられたと判断すべきでしょう。当欄ではテックファーム(3625)の押し目を一貫してお勧めして来ました。株価はカジノ法案の成立で1600円を付けた後、1500円を割りこむところまで一気に反落。その後、23日に18年6月期通期予想を上高で53億円から58億円(前期比24.3%増)へ、営業利益で3億6000万円から5億6000万円(同3.4倍)へ大幅に上方修正を発表しました。翌日にはこれを好感し、1670円まで上昇し、その後は利益確定売りに伸び悩んでいます。しかし、出来高は70万株を超える空前の出来高になり、かなり戻り待ちの売りを吸収したことになり、大幅な上方修正を考へます。このまま更に大きく下落することは考えづらく、目先のヤレヤレ売りの一巡を待つて反発に転じると思われ、8月10日に決算発表を予定し

一時的に振らされる可能性もありますが、23日の下げがほぼ限界とみられ、4〜6月決算の発

ています。19年6月期も好決算を見込めることを考えますと増配も視野に入ってくるものと思われ、このように前期の増額修正だけが買いの材料ではありませんので、株価が戻すばかりになる可能性はないとみています。したがって、目先の売りが一巡すれば1700円台に乗せていく可能性は高いとみています。ここからの下げは再び、拾う姿勢を貫くことが肝要と思われ、加えて今回の狙いはトクヤマ(4043)、カネカ(4118)、三井化学(4183)の化学株、ダイフク(6383)、一気に出直りを見せた三菱電機(6503)、下落傾向から離脱しはじめた東洋機械金属(6210)、東洋炭素(5310)です。



テックファームの日足チャート

星野三太郎の 株街往来

～暑さのレベルが上がる～

今更

ながらだが暑い夏が続いている。先日、筆者は仕事の都合で甲子園球場近くに出向いたが、16時過ぎで少しは夕方に向けて涼しくなると思いきや、甲子園名物の浜風も熱風になり、身体全体にドライヤーを浴びた気分になり体力を消耗した。

既に夏の高校野球大会では地区予選が始まり、

もうすぐ甲子園での全国大会が開催される。10年前、さらには20年前とは地球温暖化の影響から暑さのレベルが上がっている。昔と同じ基準で夏の炎天下でスポーツを行うには球児の健康を考慮するとリスクは高い。開催時間でナイターを増やすとか何らかの抜本的対策が必要かと感じた。炎天下といえば、今年は筆者が利用する鉄道でも熱でレールが歪んで一時的に運休になることが増えた。取材などで約束の時間に出向くには電車が一番確実な方法だったが、最近では自家用車を利用する時もある。暑いからとエアコンや車を使用すると、それが地球温暖化を更に招くことになると思うと罪の意識を感じるときもあるが、無理をしない程度で、エコロジーなことをしたいと感じている。



企業レター

新関東工場19年10月竣工

イートアンド

新技術導入し生産性を追求



新関東工場イメージ

「大阪王将 羽根つき餃子」、「大阪王将 ぷるもち水餃子」など主力商品の生産拠点であるイートアンド関東工場（群馬県邑楽郡板倉町）の隣接地に、「新関東工場」を建設する。

業開始以降、増設・増強を図り生産能力増強に取り組んできたが、主力商品である「大阪王将 羽根つき餃子」、「大阪王将 ぷるもち水餃子」などの需要増加に対応するため、今回の生産設備増強となった。新関東工場ではAIやロボット化を積極的に活用した省人化を推し進めるとともに、既存工場以上の生産性を追求し、今後の発展に寄与する新技術を積極的に導入して供給体制を整備する。

投資金額は約35億円（土地・建物・設備）で、生産能力は約740mt/月（操業時点の生産能力）、着工は18年11月で、竣工予定は19年10月。

東レ

核酸医薬品の臨床開始

次世代の特発性肺線維治療薬目指す

東レ（2882）はボナック（福岡県久留米市）と共同開発を進めている核酸医薬品「TRK-250」について、米国FDAから許可を受け、特発性肺線維症患者（IPF）を対象とした米国での第I相臨床試験を開始する。核酸医薬品はDNA（デオキシリボ核酸）やRNA（リボ核酸）の働きにより病気を引き起こす遺伝子やタンパク質に作用、副作用を低減する次世代の医薬品として注目されている。

「TRK-250」は線維化に関与する主要な増殖因子の発現を遺伝子レベルで選択的に阻害、線維化の進行を阻止することを狙いとす核酸医薬品で、ボナック独自の核酸医薬技術により、核酸医薬の課題である体内での安定性を向上させる。さらに、吸入剤として肺に直接投与することにより、効率的な標的組織への到達が期待されるという。第I相臨床ではIPF患者を対象に吸入投与の安全性・忍容性・薬物動態を確認。動物モデルによる非臨床試験で確認された肺の線維化進行抑制は第II相臨床で確認する予定で、核酸医薬の合成法にも取り組み、2020年代後半の上市を目指す。

日銀政策決定会合に注目

円安に振れないなら「戻り売り」

敏腕先物トレーラー ハチロクの裏話

かに大きく動く可能性がある。30日、31日には日銀政策決定会合が行われる。一部の報道では平均型とTOPIX型重視の配分をTOPIX型重視に変

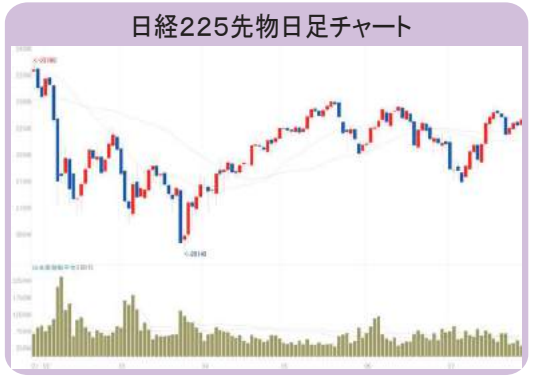
先週の日経平均は日米貿易戦争の激化で、週初は大幅に下落した。しかし、一目均衡表の転換線や75日移動平均線が下値を押し下げ、抵抗ラインと意識され、その後展開となった。結局、18日高値から下落幅は約579円で7月5日の安値から18日の高値の38・2%の差がある。今週はチャートの安値を起点とする下値抵抗ラインがク

先週の日経平均は日米貿易戦争の激化で、週初は大幅に下落した。しかし、一目均衡表の転換線や75日移動平均線が下値を押し下げ、抵抗ラインと意識され、その後展開となった。結局、18日高値から下落幅は約579円で7月5日の安値から18日の高値の38・2%の差がある。今週はチャートの安値を起点とする下値抵抗ラインがク

今週のスケジュール

- 27日 米4-6月期GDP (21:30)
- 30日 日銀金融政策決定会合(～31日)
6月商業販売統計 (8:50)
- 31日 黒田日銀総裁会見/日銀展望レポート
6月労働力調査・有効求人倍率 (8:30)
6月鉱工業生産 (8:50)
7月消費者動向調査 (14:00)
中国7月製造業PMI (10:00)
FOMC(～8/1)
米7月CB消費者信頼感指数 (23:00)
- 1日 7月新車販売台数 (14:00)
米7月ADP雇用統計 (21:30)
米7月ISM製造業景況指数 (23:00)
- 2日 7月マネタリーベース (8:50)
- 3日 6月14・15日開催の日銀金融政策決定会合議事要旨
GPIFの4-6月期運用報告
米7月雇用統計、米6月貿易収支 (21:30)
米7月ISM非製造業景況指数 (23:00)

「戻り売り」で対応したい。(ハチロク)



豪雨による大災害のあと、記録的な猛暑が続く。次は台風が直撃する。復興を進める被災地で二次災害が起きないことを願うばかりだ。それにしても今年の夏はどうなっているのだろうか。これが常態化してしまおうなら、日常生活や健康問題を含め、夏の過ごし方を根本的に考え直さなければならぬと思う。

さて、東京市場では日銀がETFの配分を見直し、TOPIX型に軸足を移す見込み。インデックス売買による急激な価格変動が常態化してしまっただろうか。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被りたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。